

小学校の遊具を鮮やかに彩る 塗装のボランティア団体『匠塗』



子どもたちが遊ぶ様子を想像しながら塗装



数種類のペンキを混ぜて色を調整

校庭の遊具をきれいに塗り替えるボランティア活動が、4月12日に市原小学校で行われました。当日は、市内外の塗装業者で構成する『建築塗装部会匠塗』と同小に通う児童の保護者が塗装を実施。さび付いていたジャンブルジムや滑り台などが黄色やピンク色などへと、鮮やかに塗り替えられ、新品同様になりました。匠塗副会長の稗田さんは「子どもたちの喜ぶ顔を見るのがうれしい。一緒に活動してくれる人を募り、今後も多くの遊具を塗装していきたい」と語ってくれました。【匠塗連絡先＝(有)市原ペイント ☎④ 7161】

みんなでまちの安全を守ろう 地域安全に関する協定を締結



左から吉田市原警察署長、市長、小出タクシー協会市原支部長、同支部役員の白鳥氏、今井氏、菊岡氏



黄色のステッカーが目印です

4月14日に県タクシー協会市原支部と市原警察署、市が地域安全に関する協定書の締結式を行いました。同協定は三者が連携して、市民の安全な暮らしを確保しようとするもの。協力しているタクシーには『地域安全パトロール』のステッカーが張られています。今後

は、これらの車両が、子ども・女性・高齢者などを保護したときや、犯罪や道路の破損などを発見したとき、警察への通報が行われます。市原警察署からの情報に、市は安全確保への対応を行います。

地産地消のために 春の園芸まつりを開催

※地産地消・・・地域で作った農産物を同じ地域で消費すること。

4月24日と26日に春の園芸まつりが農業センターで行われました。このまつりは、農業センターで生産した優良品種の野菜苗を、市内の農家に普及させる目的で始まりました。近年は、市民に農業への理解を深めてもらうために、農家が生産した野菜苗・農産物の販売や農作業体験などの催しを実施しています。両日とも、これらのイベントのほかに野菜栽培講習会やシイタケ駒打ち（原木にシイタケ菌を植え付ける）体験も行われ、会場は訪れた延べ約4,000人もの人々にぎわいました。



野菜苗の販売所では大行列ができました



会場に隣接する畑でホウレンソウの収穫体験

PHOTO セレクション

新緑のまぶしい自然の中を歩く いきいき市原ワンデーマーチ

いきいき市原ワンデーマーチが4月29日に行われました。ハイキング日和の天候の中、白鳥小学校から養老溪谷駅までを7kmから28kmの4つのコースに分かれて歩きました。昼食場所の市民の森などでは、地元の人たちからたけのこ汁が振る舞われました。ゴールの養老溪谷駅では、養老温泉の足湯に漬かる人、ゲームコーナーで輪投げをする人、産地直売コーナーでおみやげを買う人などにぎわいました。



新緑の中を楽しく歩きました



チーバくんと一緒に準備体操

Kid's stage



中村 優介君 (3歳)、歩夢さん (6歳)

「時々けんかもするけど、本当は仲良しなきょうだいです。よろしくネ」

Letter From Mobile • 116

4月2日から7日まで、バイオリニストの五嶋みどりさんがモバイル市を訪れ、演奏会や演奏講習会を行いました。モバイル市は、五嶋さんが設立した『みどり教育財団』が行っている『オーケストラ・レジデンス・プログラム』(青少年のオーケストラへの支援などを旨としたプログラム)を適用される市として選ばれたのです。モバイル市長は、来市期間を『ミドリ・ウィーク』と名づけ、彼女の貢献をたたえました。モバイル市民は、年齢や人種などにかかわらず、すべての人が音楽を身近に感じられるよう世界中を飛び回っている彼女の成功を祈っています。(今回のレポーターは、モバイル市のサウス・アラバマ大学で英語を教えているカーラ・セイントポールさんです) 問合せ 人権・国際交流課 ☎② 9826



講習会で指導する五嶋みどりさん

ホームタウン通信

47



新1年生にジェフからのプレゼント

ジェフユナイテッド市原・千葉より、市内の市立小学校新1年生全員に、オリジナル定規が贈られました。入学式翌日の4月8日には、工藤選手や米倉選手、益山選手が分担して5校を訪問し、子どもたちに定規を手渡しました。選手の訪問とプレゼントに喜び子どもたちの元気な声やきらきらと輝く瞳に「とても元気づけられた」と選手も喜んでいました。 問合せ スポーツ振興課 ☎② 9851